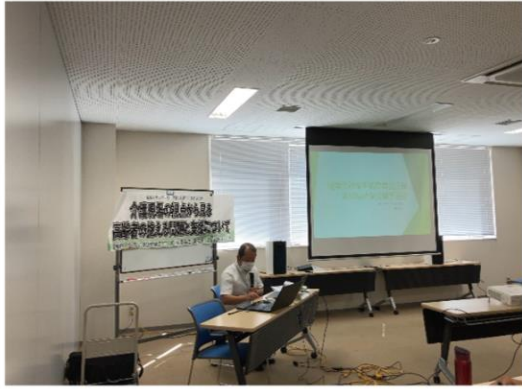


	10 月	2024 年度
組合員ふやし	4 人	655 人
出資金ふやし	9 万円	6,995 万円
純 増	△6 万円	△413 万円

介護現場の視点から見る高齢者の抱える問題と支援 ～理事会社保平和委員会～



9 月 27 日（金）、理事会社保平和委員会主催による公開学習会「介護現場の視点から見る高齢者の抱える問題と支援」を開催しました。講師には介護事業部の田頭事務長をお招きし、28 名の組合員、理事、職員が参加しました。今回の学習会では、介護現場の職員から見た高齢者が抱える問題（実態）や課題、介護保険制度の概要と最新情報、介護保険を活用するためのアドバイスの 3 点についてお話ししていただきました。

まず、介護職員から見た高齢者の問題について、生活状況アンケートの結果をもとに説明がありました。主な報告として、生活困窮に関する問題が 19 件、虐待に関する報告が 3 件、その他の問題（独居で頼れる人がいない、サービス提供者に対する暴力）が 3 件挙げられました。

次に、介護保険制度に関する解説がありました。広島市の介護保険料は、第 1 期（平成 12 年～平成 14 年）から第 9 期（令和 6 年～令和 8 年）にかけて月額 3,396 円の増額があり、給付増＝保険増の仕組みでは限界があると指摘されました。現行の制度設計や考え方では、安定性や持続可能性を維持するために、利用者負担の増加や給付削減が避けられず、これが世代間対立や、必要なサービスの利用抑制につながる可能性があるとのことです。また、長引く人手不足やコロナ禍の影響、物価高騰などによる厳しい経営環境が続く中、介護事業者（老人福祉・介護事業）の倒産が増加しており、「保険があっても介護が受けられない」状況が「保険はあるが事業所がない」という懸念に発展している点も強調されました。

最後に、生協 10 の基本ケアと看多機についてのお話がありました。家族と「自分らしい生き方」を日常的に共有し一人で抱え込まないことが大切であると伝えられました。

参加者からは、「介護現場の深刻さが伝わってきた」「看多機をもっと増やして欲しい」との感想が寄せられました。

介護の分野は多岐にわたるので、今回の学習会をきっかけに出た疑問等に限らず継続して各支部で学習会を進めていただけたらと思います。

